施工方法 (4.4.3)
・特定埋込杭工法 (4.3.5) (4.4.4)
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α, β, γが下記の値を採用できる工法
α=(　), β=(　), γ=(　)
工法 ・中掘り拡大根固め工法 ・
試験ﾛｯﾄ：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。
なお、200箇所を超えるときは200箇所ごとをとする
試験片を採取した箇所の処置：ｶﾞｽ圧接

杭の精度 ・水平方向の位置ずれ (4.4.3)
・杭径の1/4かつ100mm以下 ・
・杭の傾斜
・1/100以内 ・
試験杭 試験杭の位置 ・図示による(　) ・ (4.2.2)
試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う ・

杭の現場継手 (4.4.2) (4.4.4) (7.2.5)
・溶接継手
形状 ・JIS A 5525による ・
溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(a)(b)による ・左記以外(　) (7.2.5)
溶接部の確認方法 ・標準仕様書7.6.10による ・ (7.6.10)
抜き取り率 ・全数 ・
・無溶接継手
工法 ※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法
検査 ※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目
施工 ※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による

杭頭の処理 ・処理する ・処理しない (4.3.7) (4.4.6)
処理方法(切断に伴う補強方法含む)
・図示による(　) ・
杭頭の中詰め材料 ・基礎のｺﾝｸﾘｰﾄと同調合のもの ・

⑥砂利地業
材料 ・再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ ・切込砂利及び切込砕石 ⊙図示 (4.6.2)
厚さ ※60mm ・100mm ⊙図示

⑦捨コンクリート地業
捨ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ ※50mm ⊙図示 (4.6.4) (6.14.1)
施工範囲
・基礎梁下、土に接するｽﾗﾌﾞ下 ⊙図示による(　)
設計基準強度 ※18N/mm2 ⊙図示
ｽﾗﾝﾌﾟ ※15cm又は18cm ⊙図示

⑧床下防湿層
材料 ・ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上 ・ (4.6.2)
施工範囲 ・建物内の土間ｽﾗﾌﾞ及び土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下(ﾋﾟｯﾄ下を除く) (4.6.5)

⑨地盤改良工法
種類及び施工方法等 ・図示による(　) ・

⑤鉄筋工事

①鉄筋
鉄筋の種類 ⊙図示 (5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
・ SD295A	・ D16以下	・躯体
・ SD345	・ D19以上	
・		
・		

②溶接金網
形状等 ・図示 (5.2.2)

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)	適用箇所
・溶接金網			
・鉄筋格子			

③継手及び定着(各部配筋)
継手方法等 ⊙図示 (5.3.4) (5.5.2)

部位	継手方法	呼び径(mm)
柱、梁の主筋	・ｶﾞｽ圧接 ・機械式継手 ・溶接継手	
耐力壁の鉄筋	・重ね継手 ・	
その他の鉄筋(　)	・重ね継手 ・	

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4)
・40d(軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの場合は50d)と標準仕様書表5.3.2の大きい方の値
⊙図示による(　)

柱に取り付ける梁の引張り鉄筋定着長さ
・標準仕様書表5.3.4
・図示による(　) (5.3.4) (5.3.7)

各部配筋
【直接基礎の配筋 標準仕様書各部配筋参考図1.1による 図示】
【基礎接合部の補強配筋 標準仕様書各部配筋参考図1.2による 図示】
【基礎梁主筋の継手、定着及び余長 標準仕様書各部配筋参考図1.3による 図示】
【基礎梁のあばら筋 標準仕様書各部配筋参考図1.4による 図示】
【柱主筋の継手、定着及び余長 標準仕様書各部配筋参考図2.1による 図示】
【帯筋組立の形及び割付け 標準仕様書各部配筋参考図2.2による 図示】
【柱の打増し補強 標準仕様書各部配筋参考図2.3による 図示】
【大梁主筋の継手、定着及び余長 標準仕様書各部配筋参考図3.1による 図示】
【あばら筋の組立の形及び割付け等 標準仕様書各部配筋参考図3.2による 図示】
【梁の打増し補強 標準仕様書各部配筋参考図3.3による 図示】
【小梁主筋の継手、定着及び余長 標準仕様書各部配筋参考図3.4による 図示】
【片持梁主筋の定着及び余長 標準仕様書各部配筋参考図3.5による 図示】
【壁の基準配筋 標準仕様書各部配筋参考図4.1による 図示】
【壁の継手及び定着 標準仕様書各部配筋参考図4.2による 図示】
【壁の交差部及び端部の配筋 標準仕様書各部配筋参考図4.3による 図示】
【壁の開口部補強 標準仕様書各部配筋参考図4.4による 図示】
【壁の打増し補強 標準仕様書各部配筋参考図4.5による 図示】
【ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄの配筋 標準仕様書各部配筋参考図4.6による 図示】
【ｽﾗﾌﾞの基準配筋 標準仕様書各部配筋参考図5.1による 図示】
【ｽﾗﾌﾞ筋の定着及び受け筋 標準仕様書各部配筋参考図5.2による 図示】
【片持ｽﾗﾌﾞの基準配筋 標準仕様書各部配筋参考図5.3による 図示】
【片持ｽﾗﾌﾞ先端に壁が付く場合の配筋 標準仕様書各部配筋参考図5.4による 図示】
【ｽﾗﾌﾞの開口部補強 標準仕様書各部配筋参考図5.5による 図示】
【出隅及び入隅部の補強配筋 標準仕様書各部配筋参考図5.6による 図示】
【ｽﾗﾌﾞの打継ぎ補強配筋等 標準仕様書各部配筋参考図5.7による 図示】
【段差のあるｽﾗﾌﾞの補強配筋 標準仕様書各部配筋参考図5.8による 図示】
【片持ｽﾗﾌﾞ形階段の基準配筋 標準仕様書各部配筋参考図6.1による 図示】
【二辺固定ｽﾗﾌﾞ形階段の基準配筋 標準仕様書各部配筋参考図6.2による 図示】
【梁貫通孔の配筋 標準仕様書各部配筋参考図7.1による 図示】
【梁貫通孔の補強形式 標準仕様書各部配筋参考図7.2による 図示】
【ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ帳壁との取合い 標準仕様書各部配筋参考図7.3による 図示】

④鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)
※最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う) (5.3.5)

軽量ｺﾝｸﾘｰﾄで土に接する部分 ⊙無し
・有り 適用箇所(　)
・標準仕様書表5.3.6に加える厚さ (　)mm

耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等)
⊙無し
・有り 適用箇所(　)
・標準仕様書表5.3.6に加える厚さ (　)mm

⑤機械式継手及び溶接継手
使用箇所 ※図示による(　) (5.5.2)
性能(H12建告第1463号に適合するもの) ・A級 ・ (5.5.2)
機械式継手の種類(　) (5.5.2) (5.3.5)
鉄筋相互のあき ・図示による(　) ・標準仕様書5.3.5(d)による
品質の確認方法 ・図示による(　) (5.5.2)
不良となった継手の修正方法等 ・図示による(　) (5.5.2)

⑥圧接完了後の試験
外観試験 ※行う(全数) (5.4.9)

抜取試験 ※超音波探傷試験
試験の箇所数等 ・標準仕様書5.4.9、5.4.10による ・
・引張試験
試験片の採取数は、1ﾛｯﾄに対して(※3本 ・)とする

⑥コンクリート工事

①レディーミクストコンクリート製造工場
※品質管理監督検査合格工場(○適ﾏｰｸ取得工場)
・

②コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度
普通ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度 ⊙図示 (6.2.1)(6.2.2)(6.2.4)(表6.2.2)

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ	適用箇所
・24	・	
・21	・	
・	・	

軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度 (6.2.1)(6.2.2)(6.2.4)(表6.2.2)

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ	適用箇所
・	・	
・	・	

③コンクリート種別
種別 (6.2.1)
※Ⅰ類(JIS A 5308への適合を認証されたｺﾝｸﾘｰﾄ)
・Ⅱ類(JIS A 5308に適合したｺﾝｸﾘｰﾄ)

④気乾単位容積質量
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ ⊙2.3t/m3程度 ・ (6.2.3)
軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ ・1.6t/m3程度 ・1.95t/m3程度 ・ (6.10.1)

⑤コンクリートの仕上り
部材の位置及び断面寸法の許容差の標準値 (6.2.5)(表6.2.3)
⊙標準仕様書 表6.2.3による ・

合板せき板を用いるｺﾝｸﾘｰﾄの打放し仕上げ (6.2.5)(6.6.6)(6.8.3)(表6.2.4)

種別	適用箇所
・A種	外部巾木
⊙B種	
・C種	外部巾木以外

⑥セメント
種類 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1)
※普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ又は混合ｾﾒﾝﾄのA種
普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする。
・高炉ｾﾒﾝﾄB種G
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種G
・

⑦骨材
ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 ※A ・B (6.3.1)

⑧混和材料
⊙混和剤の適用(⊙AE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・) (6.3.1)
・混和材の適用(ﾌﾗｲｱｯｼｭⅠ種又はⅡ種 ・高炉ｽﾗｸﾞ ・膨張材 ・)

⑨ひび割れ誘発目地、打継目地
目地寸法 ※「9防水工事 ｼｰﾘﾝｸﾞ」による (6.6.3)(6.8.2)(9.7.3)
間隔・位置・形状 ※図示 (6.8.2)

⑩打増し厚さ(打放し仕上げ部)
・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) (6.8.2)
⊙20mm ・
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm ・

⑪型枠
せき板の材料及び厚さ ⊙合板(⊙12mm ・) ・図示 (6.8.3)
断熱材の兼用 ・行わない ・行う (6.8.3)
MCR工法用ｼｰﾄ ・用いる ・用いない (6.8.3)
打増し厚さ ・20mm ・
打増し範囲 図示による(　) ・
(6.8.3)(表6.8.1)
ｽﾘｰﾌﾞの材種 ※標準仕様書6.8.3(i)(2)及び標準仕様書表6.8.1による
・ (6.10.1)(表6.10.1)

⑫軽量コンクリート
種別 ・1種 使用部位(　) ・2種 使用部位(　)
適用箇所 ・図示による(　) ・ (6.10.1)

⑬寒中コンクリート
適用期間 ・図示による(　) ・ (6.11.1)
・積算温度を基に定める場合 ・図示による(　) ・

⑭暑中コンクリート
構造体強度補正値(S) ※6N/mm2 (6.12.2)

⑮マスコンクリート
ｾﾒﾝﾄの種類 ・中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ (6.13.2)
・低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
・高炉ｾﾒﾝﾄB種G
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種G
・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄにJIS A 6206に適合するｺﾝｸﾘｰﾄ用高炉ｽﾗｸﾞ粉末の4000を混合したもの
適用箇所 ※図示による(　) ・
・混和材 (6.13.2)
混和材の種類 ※JIS A 6206に適合するｺﾝｸﾘｰﾄ用高炉ｽﾗｸﾞ微粉末の4000G
・
・混和剤 (6.13.2)
混和剤の種類 ※JIS A 6204に適合するAE減水剤又は高性能減水剤
・
ｽﾗﾝﾌﾟ ※15cm ・

⑯無筋コンクリート
無筋ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度 ⊙図示 (6.14.1)(6.14.3)

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ	適用箇所
※18	※15又は18	※標準仕様書6.14.1(e) ・図示
・	・	
・	・	

⑰流動化コンクリート
適用箇所 ・ 図示による(　) ・ (6.2.1)(6.15.1)

⑱耐震スリット

方向	ﾀｲﾌﾟ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向	※完全(全貫通型)	・耐火型	・有り	
・水平方向	・	・非耐火型	・無し	

目地(目地材の材質は標準仕様書表9.6.1による)

目地	内壁	外壁
目地材	ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり部のみ)	ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり部のみ)
目地寸法(mm)	・幅20×深さ10 ・	・幅20×深さ10 ・

施工箇所 ※図示

⑲止水板
形式 ・差込式 ・据置式 ・壁張り式
施工位置 ※図示

⑦鉄骨工事

①鉄骨の製作工場
※建築基準法に基づき性能評価を受けた製作工場で、下記に認定されたグレード以上の製作工場
・Sｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Hｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Mｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Rｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Jｸﾞﾚｰﾄﾞ (7.1.3)
・上記のもの以外の製作工場(・監督員の承諾する製作工場 ・)

②施工管理技術者
※適用する ・適用しない (7.1.3)(7.1.4)(7.6.2)(7.12.2)

③鋼材
材質等 ・図示 (7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格
		・JIS規格による ・・
		・JIS規格による ・・
		・JIS規格による ・・
		・JIS規格による ・・
		・JIS規格による ・・
		・JIS規格による ・・

④高力ボルト
ﾎﾞﾙﾄの区分 (7.2.2)(7.3.2)
・ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ ・JIS形高力ﾎﾞﾙﾄ
すべり係数試験 ※行わない ・行う (7.4.2)
試験方法等 ・図示による(　) ・

⑤普通ボルト
ﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄの材料 (7.2.3)(7.3.2)
・標準仕様書7.2.3による ・図示
座金 ・標準仕様書 7.2.3(d)による ・図示
ﾎﾞﾙﾄの径 ・図示 ・
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等 ・図示 ・

⑥溶融亜鉛めっき高力ボルト
摩擦面の処理 (7.2.2)(7.12.4)
・ﾌﾞﾗｽﾄ処理(表面粗度50μmRz以上) ・りん酸塩処理
すべり耐力等の確認方法
※すべり係数試験 試験方法等 ・図示による(　) ・

⑦アンカーボルト
適用 ・建方用ｱﾝｶｰ (7.2.4)(7.10.3)
材質 ・SS400 ・
・構造用ｱﾝｶｰ
材質 ・SNR400B ・図示
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの種類の規格、及び仕上げの程度 (7.2.4)(表7.2.3)
※標準仕様書 表7.2.3による ・

⑧溶接材料
溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(a)(b)による。 (7.2.5)
・標準仕様書7.2.5(a)(b)以外の溶接材料

⑨デッキプレート
材質、形状及び寸法 (7.2.7)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・構造床			
・合成ｽﾗﾌﾞ			
・床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷ			
・			

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む) ・図示による(　) ・
鉄骨部材への溶接方法 ・図示による(　) ・ (7.7.8)
耐火認定 ・有り ・無し
耐火時間 ・図示による(　) ・

⑩スタッド
材質、形状及び寸法
※頭付きｽﾀｯﾄﾞJIS B 1198 ・

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

⑪柱底均しモルタル
ﾓﾙﾀﾙの種別 ※無収縮ﾓﾙﾀﾙ ・ (7.2.9)
柱底均しﾓﾙﾀﾙの厚さ ・50mm ・30mm ・図示

⑫工作図
原寸図の作成 ・行う ・行わない (7.3.2)
監督員による現寸検査 ・行う ・行わない
※増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上、工作図を作成すること

⑬鉄骨の仮組
・行う ・行わない (7.3.10)
仮組を行う範囲 ・図示による(　) ・
確認方法、確認項目 ・図示による(　) ・

⑭溶接作業における技能資格者
溶接作業者の技量付加試験 ※行わない ・行う (7.6.3)
試験の要領 ・

⑮溶接接合
開先の形状 ・図示による(　) ・ (7.6.4)
ｽﾗﾌﾞの形状 ・図示による(　) ・ (7.6.7)
ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞを切除する部分 ・見え掛り部となる部分(・図示による(　) ・)
・見え隠れ部となる部分(・図示による(　) ・)
溶接部の余盛り高さ ・JASS 付則6「鉄骨精度検査基準」付表3「溶接」による ・

※固形ﾌﾗｯｸｽﾀﾌﾞの使用
固形ﾌﾗｯｸｽﾀﾌﾞを使用する場合はAW検定技能会員の実施する認定試験の合格者若しくは、日本ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞ協会の実施する施工講習会受講者が施工すること。

⑯溶接部の試験
完全溶け込み部の超音波探傷試験 (7.6.11)(表7.6.2)(表7.6.3)
※行う ・行わない
・工場溶接の場合 AOQL(%) ※4.0 ・2.5

節	・全て	・	・	・
検査水準	※第6水準	・	・	・

・現場溶接の場合 AOQL(%) ※4.0 ・2.5
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強ﾏﾆｭｱﾙ」による
・抜き取り検査① ※抜き取り検査②

⑰錆止め塗装
素地ごしらえ ※C種 (7.8.3)(18.2.3)
錆止め塗料(工場1回・現場1回塗)
屋外(※JIS K 5674 ・図示)
屋内(・JIS K 5674 ※JASS 18 M－111 ・図示)

⑱耐火被覆
種別 (7.9.2～7.9.7)

種別	材料・工法	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ	
	・半乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ	
	・湿式ﾛｯｸｳｰﾙ	
	・	
	・	
・耐火板張り	・繊維混入けい酸ｶﾙｼｳﾑ板	
	・	
・耐火材巻付け	・高断熱ﾛｯｸｳｰﾙ	
	・	
・ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り	―	

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする
性能

性能	適用箇所(部位・部分)
・30分耐火	
・45分耐火	
・1時間耐火	
・2時間耐火	

⑲アンカーボルトの保持及び埋込み工法
構造用ｱﾝｶｰﾌﾚｰﾑの形状及び寸法 (7.2.4)(7.10.3)
・図示による(　) ・ ・
建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの保持及び埋込み工法 (表7.10.1)
種別 ・A種 ・B種 ・C種

⑳軽量形鋼構造
接合部(ﾎﾞﾙﾄ接合の場合) ・普通ﾎﾞﾙﾄ接合 ・ (7.11.2)

㉑溶融亜鉛めっき
※標準仕様書7.12.3による ・ (7.12.3)

⑧コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

①補強コンクリートブロック造
ﾌﾞﾛｯｸの種類 (8.2.2)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓﾃﾞｭｰﾙ 呼び寸法(mm)	化粧の有無	適用箇所
※空洞ﾌﾞﾛｯｸ-16			・無 ・有	
・型枠状ﾌﾞﾛｯｸ-20			・無 ・有	
・			・無 ・有	

各部の配筋 ※図示 ・

②コンクリートブロック帳壁及び壁
ﾌﾞﾛｯｸの種類 (8.3.2) (表8.3.1)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓﾃﾞｭｰﾙ 呼び寸法(mm)	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所
・空洞ﾌﾞﾛｯｸ-08			・無 ・有	
・空洞ﾌﾞﾛｯｸ-16			・無 ・有	
・			・無 ・有	

各部の配筋 ※図示 ・

③ALCパネル
(8.4.2～5)(表8.4.2～4)

ﾊﾟﾈﾙの種類	単位荷重(N/m2)	厚さ(mm)	長さ(mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
・外壁ﾊﾟﾈﾙ	・1180 ・1960	・100 ・	・2990 ・3490	・有(1)時間	・平 ・意匠	・A種・B種
・間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ		・100 ・	・2990 ・	・有(1)時間 ・無	・平 ・意匠	・C種・D種・E種
・屋根ﾊﾟﾈﾙ	・980 ・	・100 ・	・1980 ・2480	有(0.5)時間	・平	F種
・床ﾊﾟﾈﾙ	・2350 ・3530	・100 ・	・1780 ・1980	・有(　)時間	・意匠	

外壁ﾊﾟﾈﾙの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法)
・適用しない
外壁ﾊﾟﾈﾙの出隅及び入隅のﾊﾟﾈﾙ接合部, 並びにﾊﾟﾈﾙと他部材との取合い部の目地幅(mm) ※20・ (8.4.3)
伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する (8.4.3)

④押出成形セメント板(ECP)
・厚物(厚さ35mm以上) 規格等 ※JIS規格品 (8.5.2～4)(表8.5.1～2)
種 類 ※無石綿ﾀｲﾌﾟ

ﾊﾟﾈﾙの種類	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	ﾛｯｸｳｰﾙ充てん	工法の種別
・外壁ﾊﾟﾈﾙ	・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ	・50 ・60 ・		・有 ・無	・A種 ・B種
	・ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ	・50 ・60	・600	・有 ・無	
	・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ	・60		・有 ・無	
・間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ	・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ	・50 ・60 ・		・有 ・無	・B種 ・C種
	・ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ	・50 ・60		・有 ・無	
	・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ	・60		・有 ・無	

外壁ﾊﾟﾈﾙの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法)
・適用しない

株式会社 横河建築設計事務所
YOKOGAWA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.
東京都品川区上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第210615号 長 溝 雅 人
東京都品川区上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第233442号 和 田 雅 彦
東京都品川区上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第307492号 朝 井 典 之

平成27年度静岡県立総合病院仮設救急車寄新築工事
建築 特記仕様書(2)
A1：-
A3：-
A－02

⑨ 防水工事

5 パネルの開口の限度

・薄物(厚さ35mm未満)　種類　※無石綿ﾀｲﾌﾟ

分類	規格		・窯業系ﾊﾟﾈﾙⅠ類	・窯業系ﾊﾟﾈﾙⅡ類
寸法(mm)		厚さ	・	・
		幅	・	・
		長さ	・	・
曲げ強さ 曲げﾓｰﾒﾝﾄ ※1		標準時	550N・cm以上	450N・cm以上
		凍結融解完了時(試験ｻｲｸﾙ数)	400N・cm以上 (300)	320N・cm以上 (200)
吸水率(%)			20%以下	20%以下
吸水による長さの変化率(%)			0.07以下	0.07以下
防火性能			不燃	不燃
耐衝撃性	おもり重量		1,000ｇ	500ｇ
			高さ1.0mから試験体の弱点部におもりを落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。	
耐凍結融解性能			上記試験ｻｲｸﾙ後、著しい割れや剥離が無く、外観上異常が無いこと	
出荷時の含水率			10%以下	
寸法の許容値			厚さ：-5%～＋10%　幅：±１%	

※１：ｽﾊﾟﾝ50cmにおける単位幅１cmあたりの曲げﾓｰﾒﾝﾄ

(8.5.5)

パネルに開口を設ける場合	開口の大きさ		切断後のﾊﾟﾈﾙの残りの部分の幅
	短辺	・ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下 ・	・150mm以上 ・
	長辺	・500mm以下 ・	・300mm以上 ・
パネルを切り欠く場合	短辺	・図示による ・	・300mm以上 ・
	長辺	・500mm以下 ・	・300mm以上 ・

1 アスファルト防水

屋根保護防水　(9.2.2～3)(9.2.5)(表9.2.3～6)

種別	施工箇所	断熱材G	絶縁用ｼｰﾄ	立上り部の保護
・A-1			※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上・	※乾式保護材・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え
・A-2				
・A-3				
・B-1				
・B-2				
・B-3				
・AI-1		(材質)※JISA9511によるA種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板 3種b(ｽｷﾝ層付)・ (厚さ)・25mm ・50mm	※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/m2程度・	
・AI-2				
・AI-3				
・BI-1				
・BI-2				
・BI-3				

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による ・
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による ・
平場の保護ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ　こて仕上げ ※水下 80mm以上 ・
床ﾀｲﾙ張り ※水下 60mm以上 ・

・乾式保護材
窯業系ﾊﾟﾈﾙ：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ養生したもの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。
(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

屋根露出防水　(9.2.3)(表9.2.7～8)

種別	施工箇所	断熱材G
・D-1		
・D-2		
・D-3		
・D-4		
・DI-1		(材質)※JISA9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの・ (厚さ)・25mm ・
・DI-2		

仕上げ塗料　※ｼﾘｺﾝ ・ｶﾗｰ
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ﾙｰﾌﾌﾄﾞﾚﾝ回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置　※図示

屋内防水　(9.2.3)(表9.2.9)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

屋上排水溝　・設ける

仕上げ	厚さ(水下)	溶接金網	水勾配
・ﾓﾙﾀﾙ金ごて・	・40mm以上・	・φ2.6mm、網目寸法50mm・	・1/200以上・

2 改質アスファルトシート防水

(9.3.2～3)

工程による種別	施工箇所	断熱材G	防湿層
・AS-T1			
・AS-T2			
・AS-J1			
・AS-T3			
・AS-T4			
・AS-J2			
・ASI-T1		(材質)※JISA9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの・ (厚さ)・25mm ・	・設ける(改質ｱｽﾌｧﾙﾄ製造所の仕様による)・設けない
・ASI-J1			

仕上げ塗料　※ｼﾘｺﾝ ・ｶﾗｰ

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別　(9.4.2～3)(表9.4.1～2)

種別	施工箇所	絶縁用ｼｰﾄの材種	断熱材G
・S-F1			
・S-F2			
・S-M1			
・S-M2			
・S-M3			
・SI-F1			(材質) ※A種ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの・ (厚さ)・25mm ・
・SI-F2			
・SI-M1			(材質) ※JISA9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの又はA種押出し法ポリスチレンフォーム保温材の保温板 ・ (厚さ)・25mm ・
・SI-M2		※発泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ・	

仕上塗料　※ｼﾘｺﾝ ・ｶﾗｰ
ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ　(3.5.2)
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.2による ・
防水下地かPCｺﾝｸﾘｰﾄ部材下地の場合の処理
目地処理　※図示 ・
入隅部の増張り(S-F1、S-F1の場合)　※図示 ・
機械的固定工法の場合の一般部のﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
・適用しない

4 塗膜防水

防水層の種別　(9.5.3)(表9.5.1～2)

種別	施工箇所	備考
・X-1		仕上げ塗料塗り ・ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ
・X-2		
・Y-1	※地下外壁防水 ・	
・Y-2	※屋内防水 ・	Y-2の保護層 ・殴る

5 ケイ酸質系塗布防水

防水層の種別　(9.6.3)(表9.6.2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※C-U1		・C-UP	

6 脱気装置

(9.2.3)(9.3.3)(9.5.3)

防水種別	脱気装置の種類	材質	設置数量
D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J2 ASI-T1 ASI-J1	※製造所の仕様による・	※製造所の仕様による・	※製造所の仕様による・設置位置　※図示
X-1	・平面部脱気型	・ﾎﾞﾘｴﾁﾚﾝ樹脂 ・ABS樹脂 ・ｽﾃﾝﾚｽ ・錆鉄 ・	(　　)m2/個 設置位置　※図示
	・立上がり部脱気型	・合成ｺﾞﾑ ・塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂 ・ｽﾃﾝﾚｽ ・鋼 ・	(　　)m2/個 設置位置　※図示

⑦ シーリング

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。　(9.7.2)(表9.7.1)
ただし、外壁ﾀｲﾙ接着剤張りの場合のｼｰﾘﾝｸﾞは11章に、ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙの場合のｼｰﾘﾝｸﾞは17章による

施工箇所	ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類(記号)

目地寸法
打継ぎ目地　※幅20mm×深さ10mm以上 ・
ひび割れ誘発目地　※幅20mm×深さ10mm以上 ・
ｶﾞﾗｽ回り目地　※幅 5mm×深さ 5mm以上 ・
その他の箇所　※幅10mm×深さ10mm以上 ・

目地位置　※図示

接着試験　※する　(※簡易接着性試験 ・引張接着試験)
・しない　(監督員協議)

10 石工事

1 施工

石材の割付け　※標仕10.1.3(a)(1)、(2)による ・図示　(10.1.5)
粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ ・図示 ・
屋内の床を本磨きとする場合のｳｯｸｽがけ
・行う　(使用箇所 ・すべて ・　　)

2 石材

天然石、ﾃﾗｿﾞﾌﾞﾛｯｸ、ﾃﾗｿﾞﾀｲﾙ　(10.2.1)(表10.2.1～2)

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げ	備考
	・1等品 ・2等品						

3 外壁湿式工法

石裏面処理　・適用する　(10.3.2)
裏打ち処理　・適用する　(10.3.2)
下地ごしらえ　※流し筋工法　(10.3.3)
・あと施工ｱﾝｶｰ工法
・あと施工ｱﾝｶｰ ・横筋流し工法
ﾄﾞﾚﾝﾊﾟｲﾌﾟの材質　・樹脂ﾈｯﾄ製ﾊﾟｲﾌﾟ ｸﾛｽﾒｯｼｭ巻き 25～35Φ・　(10.2.3)
ｱﾝｶｰの材質及び径　※SS400 M12 ・
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び形状(　　)
目地　一般目地　目地幅(mm)　※6以上 ・　(10.3.3)
ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・適用する
伸縮調整目地　位置　※標準仕様書表11.1.1による ・図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材　目地寸法　※標準仕様書9.7.3(a)(3)による ・図示

4 内壁空積工法

石裏面処理　・適用する　(10.4.2)
裏打ち処理　・適用する　(10.4.2)
下地ごしらえ　※あと施工ｱﾝｶｰ, 横筋流し工法 ・あと施工ｱﾝｶｰ工法　(10.4.3)
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び形状(　　)
目地　一般目地　目地幅(mm)　※6以上 ・　(10.4.3)
ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・適用する
伸縮調整目地　位置　※標準仕様書表11.1.1による ・図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材　目地寸法　※標準仕様書9.7.3(a)(3)による ・図示

5 乾式工法

取付け方式　・ｽﾗｲﾄﾞ方式 ・ﾛｯｷﾝｸﾞ方式　(10.2.2)
石裏面処理　・適用する　(10.5.2)
裏打ち処理　・適用する　(10.5.2)
ｱﾝｶｰの材質及び径　・ｽﾃﾝﾚｽ(SUS304)M10 ・　(10.2.2)
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び形状(　　)
目地幅(mm)　※8以上 ・図示　(10.5.3)
目地ｼｰﾘﾝｸﾞ材　※標準仕様書9.7.3による ・適用しない　(10.5.3)

6 床及び階段の石張り

床石張りの裏面処理　・行う　(10.6.2～3)
階段張りの裏面処理　・行う
目地　一般目地　目地幅(mm) ・図示 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・適用する
伸縮調整目地　位置　※床面積30m²ごと、細長い通路6m程度ごと及び他部材との取り合い部 ・図示

7 笠木、甲板等の石張り

取付け工法　・外壁湿式工法 ・乾式工法　(10.2.2)(10.7.1、3)
取付け金物　※標準仕様書10.2.2(c)による ・
引金物、だぼ、かすがい及び受金物　※標準仕様書10.2.2(a)による ・
石裏面処理　・適用する ・適用しない
乾式工法の場合の取付け代　※標準仕様書10.5.3(b)による ・
石裏の補強用ﾓﾙﾀﾙ　・適用する ・適用しない
ｱﾝｶｰの材質及び径　・ｽﾃﾝﾚｽ(SUS304)M10 ・
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法(　　)

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

(11.1.3)(表11.1.1)
位置　※標準仕様書表11.1.1による ・図示

2 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

ﾀｲﾙの形状、寸法等　(11.2.2、3、7)

施工箇所	主な用途による区分	形状寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	滑り抵抗性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない
ﾓﾙﾀﾙ塗りのｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の処理　・MCR工法　・目荒し工法(高圧洗浄) ・
壁ﾀｲﾙ張りの工法
外装ﾀｲﾙ　・密着張り　・改良積上げ張り　・改良圧着張り
内装ﾀｲﾙ以外のﾕﾆｯﾄﾀｲﾙ　・ﾏｽｸ張り　・ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張り

既製調合ﾓﾙﾀﾙ
ﾓﾙﾀﾙ下地としたﾀｲﾙ工事に使用する張付け用ﾓﾙﾀﾙとして、ｾﾒﾝﾄ、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
(品質・性能・試験方法)　建築材料等品質性能表による

・既製調合目地材
(品質・性能・試験方法)　建築材料等品質性能表による

3 接着剤による陶磁器質タイル張り

ﾀｲﾙの形状、寸法等　(11.3.2～4、7)

主な用途による区分 施工箇所	形状寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用G	耐凍害性 有	無	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ 規制対象外 ・
外装ﾀｲﾙ接着剤張りにおける目地のｼｰﾘﾝｸﾞ材
打継ぎ目地　※ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
ひび割れ誘発目地　※ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
伸縮調整目地　※変成ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
その他の目地　※変成ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
ﾓﾙﾀﾙ塗りを行うｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の処理
・MCR工法 ・目荒し工法(高圧洗浄) ・

4 陶磁器質タイル型枠先付け

ﾀｲﾙの形状、寸法等

主な用途による区分 施工箇所	形状寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用G	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない

ﾀｲﾙ型枠先付けの種類

種類	適用ﾀｲﾙ	ﾀｲﾙ型枠先付け面のせき板の種別
・ﾀｲﾙｼｰﾄ法	・小口ﾀｲﾙ	※標準仕様書6.8.3(b)(2) ・金属製ﾀｲﾙ先付け用ﾊﾟﾈﾙ ・
・目地桝法	・二丁掛けﾀｲﾙ	
・桟木法	大形ﾀｲﾙ	

12 木工事

1 表面仕上げ

(12.1.4)

表面仕上げの種別	適用箇所
・A種	
※B種	
・C種	
・D種	

2 製材G

※県内産木材 ・12.2.1による木材 ・市販品　(12.2.1)
・適用樹種(・杉 ・檜)
・県内産木材の適用がない場合でも可能な範囲で県内産木材の使用に努めること
・報告：静岡県産材証明制度の「県産材販売管理票」により報告すること
※県内産木材の適用がある場合は、代用樹種の使用はできない
※合法的に生産された木材を使用すること。
・報告：木材・木製品の合法性、持続可能性の証明のためのｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ(平成18年2月15日林野庁作成)に準拠した証明書により報告すること
現場搬入時の木材の含水率　※A種 ・B種
造作材の材面の品質の基準　※A種 ・B種
保存処理木材　・使用する(使用箇所　　)
間伐材等　・使用する(使用箇所　　)
(12.2.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※2級・		※A種 ・B種・	・
			※2級・		※A種 ・B種・	・
			※2級・		※A種 ・B種・	・

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
					※A種 ・B種・	・
					※A種 ・B種・	・
					※A種 ・B種・	・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※1級・		※A種 ・B種・	・
			※1級・		※A種 ・B種・	・
			※1級・		※A種 ・B種・	・

「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	造作材の材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			(　　)・適用する 造作材の場合・適用しない(※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種 ※A種・B種	・・
			(　　)・適用する 造作材の場合・適用しない(※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種 ※A種・B種	・・
			(　　)・適用する 造作材の場合・適用しない(※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種 ※A種・B種	・・

3 造作用集成材G

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※規制対象外 ・　(12.2.1)

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の等級	間伐材等の適用
			※1等 ・2等	・
			※1等 ・2等	・
			※1等 ・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の等級	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：			※1等・2等	・
					・
					・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)		間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				・
					・
					・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
					※A種・B種・	・
					※A種・B種・	・
					※A種・B種・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※A種・B種・	・・
	化粧薄板：芯材：				※A種・B種・	・
	化粧薄板：芯材：				※A種・B種・	

株式会社 横河建築設計事務所
YOKOGAWA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

1 ・ ・ ・
2 ・ ・ ・
3 ・ ・ ・
4 ・ ・ ・
5 ・ ・ ・

東京都品川区上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第210615号 長浦 雅人
東京都品川区上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第233442号 和田 雅彦
東京都品川区上大崎2-25-2 株式会社 横河建築設計事務所 一級建築士登録 第307492号 朝井 典之